

令和2年度補助系統別事業評価票(伊良湖支線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖支線(福祉C堀切)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	29.0km	8.2 回	田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R2年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合 C → 系統廃止に至る場合	年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由		年間利用者数【人】	53,971	52,818	53,026	57,973	48,861
A	補助対象期間の開始日から、新型コロナウイルス感染症によりお客様の利用数に合わせた運行本数（土休日ダイヤ）にした4/20～5/31とやむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		平均乗車密度（実績）	3.4	3.2	3.2	3.5	2.6
			輸送量（実績）	24.8	23.3	23.3	25.5	21.3
			収支率（実績）			44.4%	46.6%	35.3%

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B1	目標	前年比84.3%で、目標に対しては91.2%で目標を達成することができなかった。前年比の内訳として、定期外84.4%、定期84.1%となった。 新型コロナウイルスの影響により、全般的に利用者減となった。(特に中間帯)	市町村名: 田原市 新型コロナウイルスの影響により、バスの利用者が減少している。外出が減ったことにより、一般利用者の通院や買い物での利用が減っていると考えられ、朝夕の学生利用も減少したと考えられる。
	結果		
	特記事項		
評価の基準		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A → 年間目標利用者数を達成できた場合		市町村名:	市町村名:
B1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合			
B2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合			
C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合			

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)		住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ	4,260 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市	市町村名:
全利用者に占める率(△)	86.1 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。	市町村名:
特記事項	合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
	田原駅周辺にララグラン(商業施設[H30.6～]・親子交流館すくっと[H31.4～])、ABホテル[H31.1～]がオープンした。(田原市)

3. R2年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組	赤羽根地区において高齢者を対象とした市政ほーもん講座で、田原市と利用促進に努めた。沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名：田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)					
事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。					
関係者の連携等(△□)	その他の取組	東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス(株)元氣バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		
必要な情報交換を実施。					

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が多いので、田原市内の高校生利用者への情報提供を継続的に行っていく。また、新しい生活様式に合わせた運行形態を検討していく。	市町村名：田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R3年度、R4年度に行う取組	令和2年10月より利用実態に合わせ、土休日ダイヤの運行本数を見直した。 また、令和3年3月よりバスロケーションシステムの導入に合わせGTFS化し、利便性向上を図る。	市町村名：田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関する評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名：田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人〔H28・H29年度の集計値〕の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：田原市 渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。	市町村名：	市町村名：

通信欄

(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和2年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(渥美病院福祉C明神))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院福祉C明神)	豊鉄バス	同左	渥美病院～伊良湖岬	29.1km	4.4 回	田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R2年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合 C → 系統廃止に至る場合	年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由		年間利用者数【人】	37,587	29,049	43,797	44,522	34,562
A	補助対象期間の開始日から、新型コロナウイルス感染症によりお客様の利用数に合わせた運行本数(土休日ダイヤ)にした4/20～5/31とやむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		平均乗車密度(実績)	4.9	4.1	5.1	4.4	3.3
			輸送量(実績)	17.1	14.3	19.8	19.3	14.5
			収支率(実績)			68.6%	59.0%	45.2%

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B1	目標	前年比77.6%で目標に対しても、78.1%で目標を達成することができなかった。前年比の内訳として、定期外76.8%、定期74.7%となった。新型コロナウイルスの影響により、利用者数が大幅に下がった。結果として、輸送量が15.0を下回った。	市町村名: 田原市
	結果		新型コロナウイルスの影響により、バスの利用者が減少している。外出が減ったことにより、一般利用者の通院や買い物での利用が減っていると考えられ、朝夕の学生利用も減少したと考えられる。
	特記事項		
評価の基準		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A → 年間目標利用者数を達成できた場合		市町村名:	市町村名:
B1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合			
B2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合			
C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合			

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ	2,490 人/月	市町村名: 田原市 ・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。	市町村名:	市町村名:
全利用者に占める率(△)	76.1 %			
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
	田原駅周辺にララグラン(商業施設[H30.6～]・親子交流館すくっと[H31.4～])、ABホテル[H31.1～]がオープンした。(田原市)

3. R2年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組 その他の取組	田原市内の公共施設に、割引きっぷ各種を掲載した、利用促進パンフレットを配布した。沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)					
観光利用者に向けた利用促進策強化。通学利用者にも継続したPRを実施。					
関係者の連携等(△□)	その他の取組	東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス(株)元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		
必要な情報交換を実施。					

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
輸送量が15.0を切っている。通学利用者以外に向けた利用促進策を図っていく。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R3年度、R4年度に行う取組	田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努め、並行して運行している他系統との取組みも必要である。また、令和3年3月よりバスロケーションシステムの導入に合わせGTFS化し、利便性向上を図る。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人〔H28・H29年度の集計値〕の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市 渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。	市町村名：	市町村名：

通信欄

(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和2年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(豊橋休暇村明神))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(豊橋休暇村明神)	豊鉄バス	同左	豊橋駅前～伊良湖岬	53.3km	7.9回	豊橋市、田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 名古屋鉄道、豊橋鉄道渥美線 豊鉄バス(新豊線、豊川線) <接続される系統> 豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミュニティバス(①しおかぜバス、②かわきたバス)、田原市ぐるりんバス(③市街地線、④竜浦線、⑤サンテバルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R2年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準		《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		A 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合		年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	B 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合		年間利用者数【人】	87,715	127,523	103,828	117,923	108,272
A	補助対象期間の開始日から、新型コロナウイルス感染症によりお客様の利用数に合わせた運行本数(土休日ダイヤ)にした4/20～5/31とやむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	C 系統廃止に至る場合		平均乗車密度(実績)	3.3	4.7	3.7	4.0	3.5
				輸送量(実績)	26.4	37.6	29.2	31.6	27.6
				収支率(実績)			42.0%	45.3%	40.1%

目標・効果達成状況	評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	104,866	前年比91.8%となり利用者が減少した。目標に対しては、103.2%で目標を達成することができた。前年と比較すると、利用者の高校生と通学利用者以外(観光利用者等)での減少が考えられる。	市町村名: 田原市 新型コロナウイルスの影響により、バスの利用者が減少している。外出が減ったことにより、一般利用者の通院や買い物での利用や観光利用者が減っていると考えられ、朝夕の学生利用も減少したと考えられる。
	結果	108,272		
	特記事項			
評価の基準			市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A →年間目標利用者数を達成できた場合			市町村名: 豊橋市 利用者が前年度より減少したものの、目標に対する実績が103.2%となり、新型コロナウイルス感染症の影響があるなかでも、多くの方に乗っていただくと認識している。本路線は豊橋駅前～藤沢町付近において、本市の幹線公共交通軸としての役割を担っており、本市と田原市を跨ぐ移動手段としても重要な路線であるので、今後も路線の維持確保や利用促進について、運営主体及び関係自治体と連携を図っていく必要がある。	市町村名:
B 1 →年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合				
B 2 →年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合				
C →年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合				

複数市町村を跨ぐ系統としての役割	指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ	5,715 人/月	旧市町を跨いでの利用が利用者の約半数を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、渥美病院への通院や豊橋駅、田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市 ・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。	市町村名: 豊橋市 渥美病院への通院、観光利用を目的とした利用があると考えられる。	市町村名:
全利用者に占める率(△)	55.9 %				
特記事項	合併前の田原町、渥美町と豊橋市を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
		田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6～]・親子交流館すくっと[H31.4～])、ABホテル[H31.1～]がオープンした。(田原市)

3. R2年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組	田原市内の公共施設に、割引きっぷ各種を掲載した、利用促進パンフレットを配布した。沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)	市町村名： 豊橋市 新しい生活様式における「公共交通の乗り方4カ条」を作成し、豊橋駅のバス乗り場で周知を行ったほか、豊橋市への転入者や市内施設において公共交通マップを配布した。	市町村名：
改善点とした事項(△) 観光利用者に向けた利用促進策強化。通学利用者にも継続したPRを実施。 関係者の連携等(△□) 必要な情報交換を実施。		東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス開元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR	東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、沿線市町で豊鉄バス全線におけるバスロケーションシステム導入費を補助。	

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
豊橋駅前から伊良湖岬までの長い系統である。利用者全般において、昨年と比較すると利用者数が減少した結果を踏まえて、観光と通学利用者の使い方を含め、並行して運行している他系統と一緒に利用促進策を図る。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いと運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名： 豊橋市 新型コロナウイルス感染症の影響下においても公共交通は安心安全に乗車できることを周知することなど、利用者の減少を食い止める対策が必要であると考えている。	

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R3年度、R4年度に行う取組	田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努め、観光需要を見込んだ取組みも必要である。また、令和3年3月よりバスロケーションシステムの導入に合わせGTFS化し、利便性向上を図る。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名： 豊橋市 新しい生活様式における公共交通利用方法の周知を、引き続き豊橋駅のバス乗り場やバス車内及び本市ホームページ等に掲載する。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人〔H28・H29年度の集計値〕の維持(増加)	市町村名： 豊橋市 目標未記載	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。	生活交通確保計画における目標である「収支改善率1%以上」については、新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかったと認識している。	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市 渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。	市町村名： 豊橋市 フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。	市町村名：

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和2年度補助系統別事業評価票伊良湖本線(渥美病院保美)線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院保美)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	19.9km	13.4 回	田原市
細系統	福祉センター経由	〃	渥美病院～保美	20.5km	10.4 回	〃
	福祉センター経由	〃	田原駅前～保美	19.3km	2.9 回	〃
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R2年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合 C → 系統廃止に至る場合	年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由		年間利用者数【人】	130,160	111,569	87,506	94,492	94,127
A	補助対象期間の開始日から、新型コロナウイルス感染症によりお客様の利用数に合わせた運行本数（土休日ダイヤ）にした4/20～5/31とやむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		平均乗車密度（実績）	4.4	4.2	3.3	3.4	3.6
			輸送量（実績）	66.0	63.0	48.1	48.9	48.2
			収支率（実績）			50.5%	50.4%	53.7%

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	前年比99.6%となり利用者が減少した。目標に対しては、106.5%で目標を達成した。他の並行して運行している系統と合算でみる必要があり、推移を注視していく必要がある。	市町村名: 田原市
	結果		当該系統については、前年度と比べ微減であるが、他の並行して運行している系統が減少しており、路線全体で見れば、新型コロナウイルスの影響により、定期外・定期とも大きく減少しているため、バスの利用者が減少している。
	特記事項		
評価の基準		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A → 年間目標利用者数を達成できた場合		市町村名:	市町村名:
B 1 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合			
B 2 → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合			
C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合			

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ	6,345 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者の約3/4を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名: 田原市	市町村名:
全利用者に占める率(△)	64.7 %	・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。		
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
	田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6～]・親子交流館すくっと[H31.4～])、ABホテル[H31.1～]がオープンした。(田原市)

3. R2年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組 その他の取組	田原市と協力し、利用促進パンフレットを作成し、全戸配布した。また、沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名：田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)					
中学生・高校生を対象にした利用促進事業を継続実施。					
関係者の連携等(△□)	その他の取組	東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス(株)元氣バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		
必要な情報交換を実施。					

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が大部分を占めており、学生の数によって左右されるが、昼間帯の利用が少ないので、沿線住民の方に利用していただける対策が必要である。	市町村名：田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R3年度、R4年度に行う取組	田原市内における高校生の生徒数が減少しているなかで、生活交通路線として安定的な路線の維持に努め、並行して運行している他系統との取組みも必要である。 また、令和3年3月よりバスロケーションシステムの導入に合わせGTFS化し、利便性向上を図る。	市町村名：田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関する評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通網形成計画に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名：田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人〔H28・H29年度の集計値〕の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：田原市 渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。	市町村名：	市町村名：

通信欄

(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください